

人生ハンド仏句

第160号
H. 27. 7. 1
(毎月1日発行)

魂を磨く(二)

住職 谷川寛俊

先月号で、私が最も尊敬する一人でもある、稲盛和夫氏のお話を申し上げましたが、今号でも是非取り上げて、少しでも皆様方の生きるヒントにさせていただければ幸いです。と思い、ご紹介させて頂きます。「私達人間が、生きている意味、人生の目的はどこにあるのでしょうか？最も根源的ともいえるその問いかけに、私はやはり真正面から、それは心を高める事、そして魂を磨く事があると答えたのです。生きている間は欲に迷い、惑うのが人間という生き物です。放っておけば、私達は際限なく、財産や地位や名誉を欲しがり、快樂

に溺れかねない存在です。なるほど、生きている限り衣食が足りていなくてはなりませんし、不自由なく暮らしていけるだけのお金も必要です。立身出世を望む事も生きるエネルギーとなるから、いちがいに否定すべきものでもないでしょう。しかし、そういうものは現世限りで、いくらたくさん貯め込んでも、どれ一つとしてあの世へ持ち越す事は出来ません。この世の事は、この世限りで一端精算しなくてはなりません。その中で、たった一つ滅びないものがあるとすれば、それは「魂」というものではないでしょうか？死を迎える時には、現世で作りに上げた地位も名誉も財産も全て脱ぎ捨て、魂だけたずさえて、新しい旅立ちをしなければならぬのです。

ですから、「この世へ何をしに来たのか？」と問われたら、私は迷いもためらいもなく、生まれた時より少しでも真つ当な人間になる。即ち、わずかなりとも美しく崇高な魂をもつて死んでいく為だと答えます。俗世間に生き、様々な苦楽を味わい、不幸の波に洗われながらも、やがて息絶えるその日まで、一生懸命生きていく。己の人間性を高め、精神を修養し、この世にやってきた時よりも高い次元の魂をもつて、この世を去っていく。私はこの事より他に、人間が生きる目的は無いと思うのです。昨日よりましな今日であろうと、今日よりましな明日であろうと、日々誠実に努める。そのたゆまぬ作業、地道な営為、慎ましき求道に私達が生きる目的や価値が確かに存在

「人生ハンド仏句」と打ち込んで頂けば、ホームページにつながります。

編集・発行
玉蓮山 真成寺
編集部 谷川久仁子
TEL・FAX 0765-22-2268
携帯 080-3744-2523
こちらの番号でもお寺につながります。

しているのではないのでしょうか？生きていく事は苦しい事の方が多いいものです。時に、なぜ自分だけがこんな苦勞をするのかと神や仏を恨みたくなることもあるでしょう。しかし、そのような苦しい世だからこそ、その苦は魂を磨く為の試練だと考える必要があるのです。苦勞とは、己の人間性を鍛えるための絶好のチャンスなのです。試練を「機会」として捉える事が出来る人。そういう人こそ限られた人生を本当に自分のものとして生きていけるのです。現世とは、心を高める為に与えられた期間であり、魂を磨く為の修養の場である。人間の生きる意味や人生の価値は心を高め、魂を錬磨する事にある。まずは、そういう事が言えるのではないのでしょうか？」

次号へ続く…

